

# ちよつといし話

～ 思いも寄らない ～

info@zennyu-in.or.jp

我々が生活している限り「時として思いも寄らない事が起きんとも限らない」と考えておくべきです。勿論、「善いこともあり、悪い事もあり」です。昔から一步間違えば宗教は麻薬よりも怖いと言われる通り、日本では過去にオーム真理教が起こした数々の事件があり、多くの方が「思いも寄らない事故」でお亡くなりになりました。又、「松本サリン事件」の被害者河野澄子様が平成20年8月5日に14年間の闘病生活から復帰出来ずに60年の生涯を閉じられました。真に悲しい出来事でした。世界に於いては国を二分する宗教戦争が現在でも続いております。物欲戦争と異なり宗教が起因する戦争はどうしても長引き悲惨です。私は事件、事故が起きるたびに、法然上人や武将の妻子の事を思い出します。それは彼等が被害者、加害者を問う事なく、一様いちように出家して亡くなられた夫や妻、両親の菩提を終世忘れる事なく供養された姿勢です。因果は応報いんが おうほう（殺られれば殺る、殺れば殺られる）の繰り返される事を知り、「起死回生」の為に人生を思い直して追善供養なほしている者が何人いるであろうか？昔の様に僧侶に身を変えなくても生き様は学んでほしい。その点を重要視してメディア（mass media）にも取り上げて頂きたいものです。昔は国（殿様、天皇）の為に忠節を尽くし、戦もしました。忠節とは忠義を意味し義理の世界を指します。国を守る事に関して言えば任侠にんきょう（清水の次郎長）の方と同じ世界になります。北島三郎の「義理ある人に背を向けて～」と言う歌がありますが、思うに善悪を含め義理には無理が生じやすくなります。應に薄情まさ はくじょうも情の内なのです。故に仏教では「諸行は無情」と言うのです。「我々は因縁いんねん（先祖から受け継いで来た血

統、血の流れ）に因<sup>よ</sup>って、因果（現在の所作全ての結果が導き出される）」という教えがあります。我々が良き結果を望む為には因縁ある先祖を各家庭で充分ねんごろに供養すれば良いでしょう。尚且つ義理ある靈魂を放置する事なく、住職にお願いし寺に安置して頂き、結縁の者が寺に出向いて供養してあげましょう。又、お彼岸やお盆には寺にて御先祖の追善供養が出来ます。我々未来の幸せは現在の徳積（十善戒を守る）に因り、現在の幸せは過去の清算（ご先祖の所業に対して）に因ります。要するに我々の生活は過去を見つめ、現在を知り、現在を把握<sup>はあく</sup>して未来を望むと言う事です。現在の幸せ度は現在に至るまでの己が実践と過去世の方々の所作の合計点に因<sup>よ</sup>って決まって来るのだと思います。自分の行動が正しいか否か？その判断は自分の鏡ではなく、神佛の心鏡<sup>しんきやう</sup>に照らし合わせて見て判断を下して頂きたいと思います。そうする事に依って何事も良き方向に変革<sup>へんかく</sup>され、自然に良き事に遭遇する様に成って来でしょう。親に心配を掛けて子供は成功しません。子は親を、親は祖父母を、祖父母は曾祖父母に孝養<sup>そうそふぼ こうよう</sup>を尽くす事です。又、逆に親は子を慈<sup>いつく</sup>しみ、子が道（理）を踏み外す事無き様に見守り教授しなくてははいけません。皆さんの家庭は大丈夫でしょうか。家庭での問題も多々起きると思いますが、心身に欠落<sup>けつらく</sup>が見られた時、我々はお医者様にその診断を仰ぎます。勿論、何事も初期の段階で処置<sup>しよち</sup>する事が大切です。処置の方法手段は色々あると思います。病気は気の病とも申します、**仏教寺院（当山）も一種の病院なのです。**仏教では病に8万4千種あると言われ、病院の医院長はお薬師様です。各科には専門の仏様が従事して見えます。従事される仏様は多く医者不足なる悩みはありません。言い方は悪いですが「気の病」の方は特にもっと**仏様**を活用しなくてはと思います。病気については第77号に載<sup>の</sup>っております。檀信徒の皆様が「思いも寄らない」善い事に遭遇される様に御祈念致しております。了<sup>りよう</sup>了<sup>りよう</sup> **善入院油掛地藏尊**